

## STAGE 1-3

## 新港埠頭工場

新設 1988 (昭和63) 年閉鎖後移転

## 竣工 DATA

|       |                 |                   |
|-------|-----------------|-------------------|
| 竣工年月  | 1963 (昭和38) 年9月 |                   |
| 設計者   | 石川設計事務所         |                   |
| 施工者   | 不明              |                   |
| 施設概要  | 敷地面積            | 2,211㎡            |
|       | 延べ床面積           | 7,407㎡            |
|       | 構造              | RC造4階建            |
|       | プラットホーム         | 開放型高床式            |
|       | 防熱方式            | 内防熱(一部外防熱)        |
| 収容能力  | 総トン数            | 8,198t            |
|       | F級              | 7,841t            |
|       | C級              | 357t              |
|       | C&F             | ×                 |
|       | ドライ             | ×                 |
|       | 凍結              | 4.7t/日            |
|       | その他             |                   |
| 冷却設備  | 施工者             | 中須製作所             |
|       | 冷凍機メーカー         | 不明                |
|       | 主要冷凍機           | 高速多気筒冷凍機          |
|       | 冷媒              | アンモニア             |
| その他設備 | 冷却方式            | 集中式・強制循環式・ヘアピンコイル |
|       |                 | エレベーター4基          |

新港埠頭工場(1963 (昭和38) 年9月)  
帯状の突起がコルクを使った鉢巻き状の防熱

ヨコレイ初の高速多気筒二段圧縮型冷凍機



高床式プラットホーム

## 鉢巻冷蔵倉庫って何? 創業者のアイデアが詰まっていた 斬新な冷蔵倉庫

 新港埠頭工場は、当時の最先端の冷蔵倉庫だったそうですね。

 横浜工場再建から9年、実質的に当社2つ目の冷蔵倉庫で、創業者(故吉橋会長)が米国視察で得た知識を基にしたアイデアがたくさん詰まった斬新な冷蔵倉庫だったと社史を見ると書かれているね。

鉄筋コンクリート4階建てに当時としては珍しい高床式プラットホームも備え、8,200㎡というまれに見る大型の冷蔵庫だったようだ。当社初の電動ローリフトを導

入したり扉も電動にしたりという初物尽くしだったそうだよ。

 外部にコルクで鉢巻をしていったって聞いたのですが、一体何ですか？

 全焼した横浜工場再建時に考えられた外防熱鉢巻き工法のことですね。各階の天井と床の間に折り返し防熱を入れず、防熱材のコルクを冷蔵倉庫の外壁の一部に鉢巻き状に巻いた工法で、今の外防熱の原型となりました。

故吉橋会長は常々『自分がカーテンウォール工法の生みの親である』と公言していたそうなので

が、この“外防熱鉢巻き工法”を応用することで冷蔵倉庫においてもカーテンウォール工法が実現できたからなのだと思います。

 当初はトラックによる入庫が多い想定で高床式のプラットホームを装備したのだけれど、稼働し始めたらトラックよりも舢舨の入庫の方が多いと先取りし過ぎたのかもしれないね。

 舢舨ってなんですか？

 舢舨を知らないの？ 当時大きな貨物船の接岸できる場所が限られていたので、沖に停泊

した大型の冷凍運搬船から荷物を小型の運搬専用船に積み替えて岸壁までピストンで運んでいたんだ。その小型の運搬専用船のことを“舢舨”って言うんだ。岸壁に舢舨が着いたら人海戦術で荷揚げし、品目別サイズ別に仕分けをしてから冷蔵倉庫に入庫していたんだ。

舢舨には屋根が付いて無かったから基本的に雨の日はお休みだったんだけど、保冷設備など無いため、荷物は外気ですぐに温まっちゃうんだよね。それを倉庫に入れるから庫内の温度も上がっちゃうので、舢舨での入庫のたびに温度管理が大変だったよ。

最初に作った横浜工場は輸出による外貨獲得が目的だったけど、新港埠頭工場が出来た頃は高度成長に向かって日本が急成長していたので遠洋漁業や海外か

ら魚や食糧の搬入が急増し、冷蔵倉庫の需要も保管業務が主流になってきていたね。

 人海戦術!! すべての作業を人力でしていたのですか？それは大変そうですね。

 電動ローリフトは導入していたのだけど、庫内の作業は基本的には人力だったね。その後、冷蔵倉庫の外回りはガソリンフォークリフトなどを導入するなど、徐々に機械化されてきていたね。

ところで、社史ではこの後稼働する熱田工場で庫内作業用にフォークリフトを導入した記述があるけれど、今回いろいろ聞き取り調査の結果、初導入したのは新港埠頭工場だったようだよ。

当時の工務担当だったOBの方に聞いたところ、フォークリフトを導入するにあたり、フォークリ

フト用の電動扉の設置と、床の強度を上げるための改修工事などを行ったそうだよ。

 冷凍機はどのようなものだったのでしょうか？

 ここも中須製作所が施工したんだ。社史によるとヨコレイ初の二段圧縮の高速多気筒冷凍機とエバコンが導入されたとなっているよ。多分、三菱電機の冷凍機だと思うんだけど。

 新港埠頭って今はおしゃれな商業施設や、遊園地になっていますよね？

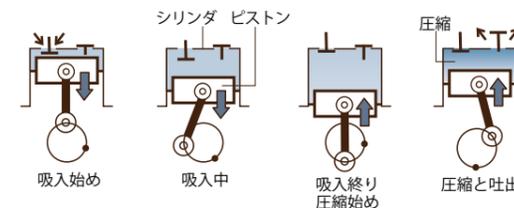
 みなとみらい地区の再開発と平成元年に開催された横浜博に協力して取り壊し、代替地として大黒ふ頭へ移転したけど、土地はそのまま当社が所有していて、今はおしゃれな結婚式場に賃貸しているよ。

### 高速多気筒冷凍機(往復動式冷凍機=レシプロ式冷凍機)

#### Technical Note

冷凍機は冷媒ガスを吸入、圧縮して吐き出す機構を有していて、これは冷媒ガスの圧力を上げて、液化(凝縮)しやすくさせるとともに、冷凍サイクルにおける冷媒ガスの循環をさせるポンプの役割を持っている。

高速多気筒冷凍機は、構造的には車のエンジンと似ており、自動車のエンジンと同じようにシリンダー内をピストンが往復運動し冷媒ガスを吸入して凝縮する。主にアンモニア、フロンガス(R-22など)を冷媒とする産業用の大型冷凍、冷蔵装置として使われている。



往復動式圧縮機の動き

### column はしげ 舢舨荷役について

舢舨荷役とは、港湾内で船と陸との間で行われる貨物の積卸し作業全般のこと。コンテナやトラックが貨物輸送の主流になるまで大量の貨物は船で運ばれ、沖に停泊した船から小さな舢舨に積み替えて倉庫まで運ばれていた(右写真上、岸壁沿いの青い屋上の建物为新港埠頭工場)。

舢舨で運ばれる貨物は現在のように商品・サイズ等が分類されておらず、荷揚げしながら仕分けを行う必要があり、荷主は倉庫からの入庫明細を見て初

めて貨物の詳細が分かるような時代だった。舢舨荷役は下記写真のように人海戦術のため社員の負担も大きかったが、倉庫業者を含めて港湾関連業者それぞれに相応の利益が残る旨味のある仕事でもあった。

